

CORPORATE
PROFILE /



アクティブ・ ディフェンス

新しい世界には、新しいあんしんを。

取締役社長
水野一隆
COO Kazutaka Mizuno



電気エネルギーの可能性を信じて、電気エネルギーを安全に確実に、より多くの人へ届けるために、私たちの会社は誕生しました。そして2019年8月、おかげさまで創業100周年を迎えることができました。

大正、昭和、平成、令和と、時代は目まぐるしく移り変わり、我が国の産業を取り巻く環境も大きく変化しています。私たち河村電器産業は業界のパイオニアとして、チャレンジャーとして、新たな時代を着実に歩み始めています。

その一歩目は、当社の基盤である電気の「安全・安心」に「測定・監視・制御」を加え、「より効率的に」という事業領域への拡大を図ること。これまでの延長線上にはない、広大なフィールドへの大きな一歩です。

電気自動車が普及し、再生可能エネルギーの可能性が広がり、IoTやAIが発達し、移動通信システムの次世代化が進む中、私たちは次に何を成すべきかを考えています。時代に対応するのではなく、時代を読み、先へ、先へと予測し、世の中にないものをつくることが当社のミッションだからです。

もちろん、私たちの歩みは国内にとどまりません。中国や東南アジアをはじめとする海外市場においても、当社が日本で培ってきた独自の技術やノウハウをもって貢献するべく、事業の展開を続けています。

未来は夢と希望にあふれています。その一方で、さまざまな場面で未知のリスクも発生します。だからこそ時代の先を読み、暮らしを守り、社会を支える。「新しい世界には、新しいあんしんを。」—アクティブ・ディフェンスこれが河村電器産業です。

PRODUCT CATEGORY

製品カテゴリ

01 高圧受電設備

6600Vの高圧電気を200Vおよび100Vに変圧するための高圧受変電機器を、金属製の函体に収納した設備です。省スペースで、施工性、メンテナンス性にもすぐれ、中小規模の工場やビルに最適な受電設備です。

使用場所

公共施設、商業施設、工場、ビル、太陽光発電所など

製品開発

フレーム式高圧受電設備(サブステーションコンボ)

分割可能なフレーム構造により、ビル、マンションなどの電気室への新規構築や改修に最適な高圧受電設備です。



02 産業用分電盤

ビル、工場の電気はすべて分電盤を通して供給されます。建物が変わればそこに使用する分電盤も千差万別に変わります。この特注要素の多い分電盤の標準化に成功。ユニットを自由に組み合わせて回路を構成して短納期、経済的な価格を実現しています。

使用場所

公共施設、商業施設、工場、ビル、集合住宅など

製品開発

太陽光発電向け各種分電盤

ソーラーパネルで発電した電気を建物内へ分配し、商用電力へ連系するときに必要な分電盤です。



PRODUCT CATEGORY

製品カテゴリ

03 産業用、 民生用キャビネット

配電機器、制御機器を収納するキャビネットは、使用環境、収納機器により最適なサイズや構造が異なります。異なるニーズに対応できるよう、さまざまな材質、構造、サイズを用意しています。

使用場所

公共施設、商業施設、工場、ビル、住宅、基地局など

製品開発

蓄電池収納キャビネット

再生可能エネルギーの安定供給と非常電源の確保に有効な蓄電システム。キャビネットの製造で培ったノウハウを活かし、高品質な蓄電池収納設備を開発しました。



宅配ボックス (RusuPo)

電気機器を保護するキャビネットの製造技術を活用して開発した、「防水性」「防錆性」「堅牢性」に優れた宅配ボックスです。屋内・屋外兼用、自立設計で電気工事不要のため、場所を選ばずに設置が可能です。



屋外情報通信キャビネット(モバキャビ)

無線機器の収納に最適な屋外用キャビネット。熱対策として遮蔽板と換気扇/電子クーラーが装着でき、簡単に柱上設置ができる省施工モデルです。



PRODUCT CATEGORY

製品カテゴリ

04 情報通信ラック

通信機器収納用19インチ*EIA規格ラックや、オフィス環境にマッチする小型ラックをラインナップ。各種ラックとオプションの組み合わせにより、データセンター、オフィスなどさまざまな用途への対応が可能です。

*米国電子工業会によって定められた、ラックと収納する機器のサイズに関する規格。

使用場所

工場、データセンター、オフィス、基地局など

製品開発

5G基地局向け屋外ラック

5G基地局が設置される環境下での耐風圧、保護構造、積雪強度などの要求仕様を満たすラックです。錆や地震にも強く、収納された機器類を過酷な屋外環境から守ります。



ICカードラック開錠システム サイバー電子錠

データセンターで利用されているラックの扉に「ICカード」による開錠権限を付与し、セキュリティに特化した「データセンター運用システム」です。



05 住宅用分電盤

電気を住宅内の照明やコンセントに供給します。電気の使いすぎなど異常が発生すると自動的に電気を遮断し、家庭内の電気の安全を守ります。常に時代に合った機能、使いやすさ、デザインを追求した製品を開発しています。



製品開発

設置・施工時間を減らす新設計 (Ezライン)

施工性を徹底的に追求したEzラインは、分岐ブレーカを横一列に配置。下段側のみの分岐配線のため作業スペースが広く、手間と設置時間を減らします。



エネルギー計測機能 (enステーション EcoEye)

コンパクトかつ高感度な電力計測センサーを内蔵した住宅用分電盤。家庭で使用するエネルギーの「見える化」と「最適制御」をスマートに実現するための機能を搭載しています。



06

遮断器(ブレーカ)

電気の流れすぎや短絡などが発生した場合、電気を遮断して電気災害を未然に防ぎます。ブレーカで最も大切なことは信頼性と考えており、JIS規格への対応、ISO9001の取得など、設計製造において、常に高い信頼性を追求しています。



製品開発

薄型分岐ブレーカ(ブレードブレーカ)

国内で最も薄い横幅10mmのブレーカ。ブレーカを薄くすることで、住宅用分電盤の大幅なコンパクト化を実現しました。



大規模地震時の電気火災防止(感震ブレーカ)

大規模地震時、原因が特定できた火災の約6割は「電気」が原因でした。感震ブレーカは強い揺れを感知すると自動的に電気を遮断。電気火災の被害を最小限に抑えます。



07

EV関連

限られた電力をかきこくシェアして何台もの同時充電を可能にするEVチャージシステムや、EVコンセント盤、コンセントスタンド規格認定品のEV普通充電用電気設備を開発しています。EV需要に幅広く対応していくことで自動車業界のカーボンニュートラルに貢献していきます。



製品開発

スマートEVチャージシステム (wayEV)

高圧受電設備の余力に応じて給電量をコントロールすることで、より多くの充電設備を低コストで効率的に導入できるEV充電器制御システムです。



電気自動車用普通充電設備 (EVコンボ)

これまで培ってきた分電盤の技術を応用し、これから普及していく電気自動車 (EV) を家庭で充電するための普通充電設備を開発しました。



08

コンセント

差し込んだままのプラグとコンセント。そのスキマに溜まったホコリが原因で発熱・発火に至る現象を「トラッキング現象」といいます。独自技術により初期段階で発生する微少な放電電流を検知して、トラッキング現象を未然に防ぎます。



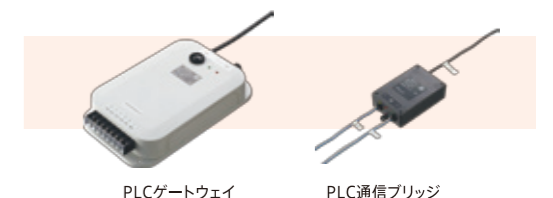
プレトラックコンセント

プレトラックコンセントスクエア

09

省エネ機器

電路上にあるすべての機器を既存電力線で制御する省エネシステム「PLC-Connector」。照明の調光制御のほか、空調の出力抑制などが可能。計測監視により、電力が見える化され、各機器を制御でき、省エネや利便性の向上、コストの削減ができ、循環型社会に貢献します。



PLCゲートウェイ

PLC通信ブリッジ

モノづくり

電気エネルギーを安全に確実に、より多くの人々に届けることをミッションとして、時代を先取りする製品をつくり続ける。その中心には、常に新しい技術と創造力で世の中にないものを——というモノづくりの精神があります。電気設備から情報通信の分野へ、そして新たな事業領域へ、世界が広がっています。

製造・技術



生産能力の増強

常に時代のニーズに対応するため、工場および設備機器の拡充を推進。キュービクルや分電盤をはじめとする各種製品の生産性向上と品質安定、納期の短縮と長時間労働の軽減を追求しています。

- 迅速かつ微細な変形加工が可能なレーザー切断機と溶接機を導入
- 福島県郡山市にAIやIoTなど最新技術を取り入れた生産拠点の建設を計画



性能試験の自動化・高度化

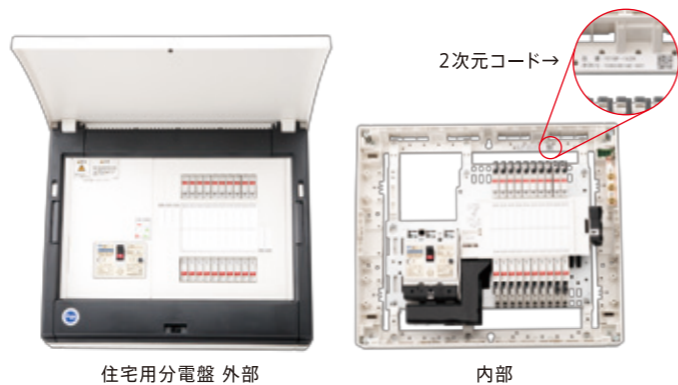
手動試験で発生する品質のばらつきを改善するため、「プレトラックコンセント」の性能試験の自動化、高度化を図っています。

- 耐圧絶縁・保持力・性能の試験、外観検査を自動化
- 性能試験の基準をアナログからデジタルに変更
- 2次元コードを使用して検査結果を製品1個単位で管理
- ハンダ付けした基板の品質を検査する3Dカメラを導入

トレーサビリティの構築

万が一、製品の不具合が発生した場合、影響を受けた対象製品の台数を迅速に特定するため、住宅用分電盤や遮断器などのトレーサビリティを構築しています。

- 製品の2次元コードをもとにその製品に使用された材料・部品・ユニット品などを特定
- 出荷された製品について影響の範囲を迅速に特定
- 出荷先情報を含む管理システムによって、製品の出荷状況を特定し、購入先・納入先への迅速な情報発信と顧客対応を実現



住宅用分電盤 外部

内部

研究・開発

品質を見せる試験棟

この試験棟は、製品に対するお客さまの安心感をさらに高めるため、“見せる試験設備”がコンセプトです。電気の安全・安心やエネルギー管理に関する製品領域の拡大にとまない、新製品の研究・開発および品質試験の評価体制を強化しています。新たな市場要求や品質基準に沿った試験が可能です。



試験棟

NEDO先導研究プログラムエネルギー・環境新技術先導研究プログラム

産、学、官が連携し、高効率な光無線給電技術の開発を目指す「NEDO先導研究プログラムエネルギー・環境新技術先導研究プログラム」に参画。発光体、受光体およびそれらの事業化三つの研究項目を進めました。

テーマ名 動体への光無線給電システムの研究開発

概要 ドローンなど移動体の航続距離を延ばすことを実現するため、移動体への光無線給電および、高効率化に関する研究をおこなっています。この方法が実現すると、さまざまな事業への転用が可能となるため、社会へ大きな影響を与えることとなります。当社は、位置検出技術等を用いて移動体を追尾し、常に無線給電ができる制御システムの研究に取り組んでいます。



レーザーによるドローン追尾制御の実験

受賞

JECA FAIR(電設工業展)製品コンクール 受賞

製品技術の創造性が認められ、16回連続の入賞を達成

- 2006年受賞 労働安全衛生総合研究所 理事長賞(プレトラックコンセント)
- 2007年受賞 日本電設工業協会 会長賞
- 2008年受賞 日本電設工業協会 会長奨励賞
- 2009年受賞 国土交通大臣賞(ブレードブレーカ)
- 2010年受賞 労働安全衛生総合研究所 理事長賞
- 2011年受賞 経済産業大臣賞(接触部過熱検知機能付ブレーカ)
- 2012年受賞 日本電設工業協会 らくらくコントロール賞
- 2013年受賞 国土交通大臣賞(enステーション EcoEye)

- 2014年受賞 大阪市長賞
- 2015年受賞 国土交通大臣賞(住宅用感震総合システム)
- 2016年受賞 日本電設工業協会 奨励賞
- 2017年受賞 日本電設工業協会 奨励賞
- 2018年受賞 関西電気保安協会 理事長賞
- 2019年受賞 日本電設工業協会 奨励賞
- 2022年受賞 環境大臣賞(スマートenコントロールシステム)
- 2023年受賞 環境大臣賞(ダブルハイブリッドEVステーション)

ひとづくり

平成の終幕とともに100周年を迎え、令和の開幕とともに新しい1歩を踏み出しました。常に進化を続ける私たちの変わらぬもの、それは、「社員は家族」という思い。いかに時代や社会が変化しようとも、人と人とのコミュニケーションは不変だと信じています。電気エネルギーの明日を考える当社のエネルギーは、ひとの力です。

人材育成



ものづくり道場



新入社員向け技能実習

ものづくり道場

本地地区にある「ものづくり道場」は、100年もの長きにわたって培われた当社の技術や知識を伝承するための施設です。実際の生産設備や当社の歴史展示コーナーを備え、新入社員をはじめとする社員研修をおこなっています。また、生産の現場で起こり得る危険な事例を疑似体験できる「安全道場」も併設し、モノづくりに対する社員の意識向上と安全・安心な職場づくりに努めています。



カワムラキャンパス(本社6F)

カワムラキャンパス

当社の創業から現在にかけてのさまざまな歴史の「認識」、良い事も悪い事も含めた活動の「検証」、これからも受け継いでいくべき大切な価値の「共有」をコンセプトに、すべての社員がカワムラを体系的に学ぶことができます。

カワムラミュージアム

「カワムラキャンパス」内で展示保存している製品の情報や経営・歴史関連の資料などをデータベース化し未来に残す、デジタルアーカイブ「カワムラミュージアム」を社員向けに公開しています。社員がいつでもどこでも閲覧することができ、蓄積された情報や技術、知識や知恵を次の業務に活かせる環境を整えています。



「カワムラミュージアム」トップページ



1960年発売の住宅用分電盤

福利厚生

ファミリー・フレンドリー企業

2007年からファミリー・フレンドリー企業に登録されています。「法を上回る育児・介護休業制度を導入して利用されていること」や、「仕事と家庭のバランスに配慮した柔軟な働き方ができる制度を持ち利用されていること」など、仕事と家庭の両立がしやすい環境が評価されました。



子育てサポート企業

2007年から子育てサポート企業「くるみんマーク」の認定を受けています。

社員が安心して結婚、出産、職場復帰ができるよう会社全体で子育てを支援する体制が評価されました。また、社員がライフイベントにともなう制度・申請手続きをするために『これだけは知っておこう!カワムラ手つづきガイド』を作成しました。社員とそこご家族に配布し、将来設計をサポートしています。

快適な食事環境の提供

農林水産省の「第1回 健康で快適な給食施設等表彰」で農林水産大臣賞を受賞した本社・暁食堂をはじめ、社員の健康を重視した食環境づくりに取り組んでいます。緑豊かな庭が一望できる本地地区の「パークダイニング」、春には桜の景色が広がる水俣工場の「サクラダイニング」など、心身ともにリフレッシュできる空間です。



パークダイニング(本地工場)

女性が働きやすい環境づくり

2018年に、愛知県が認証する「あいち女性輝きカンパニー」の中からプロモーションリーダーに選ばれました。女性が働きやすい環境をつくるために、出産、育児、子どもの教育、介護に関する支援が充実しています。



サクラダイニング(水俣工場)



パークダイニング 内観

事業活動を通じて社会に貢献するとともに国内外の発展に寄与し、地域との共生を図り、地球環境との恒久的な調和を目指します。また、文化・芸術活動やスポーツ活動などにも参画あるいは積極的な支援に努めます。
こうした幅広い活動を通して企業として社会的責任を果たすと同時に、持続可能な社会の実現に鋭意取り組んでいます。

SDGs達成に向けた取り組み



持続可能な社会の実現と、美しい地球環境の保全のために、さまざまな取り組みを通じてSDGsを推進しています。

取り組み

1 スポーツ施設・文化遺産への製品寄贈



目標

防災商材の無償提供を年間1件実施する



名古屋市テラスポ鶴舞へ製品を寄贈

2 高効率キュービクル改修



目標

高効率キュービクルの改修を年間60件実施する



3 環境対応型製品の製造



目標

環境対応型製品の開発のうち自社基準で環境適合評価点の目標点数を達成する



電気自動車用普通充電設備 (EVコンポ)

4 社会貢献活動、生物多様性保全活動への継続的参加



目標

社会貢献行事の催しを年間6件実施する



じゃがほら オオサンショウウオが生息する瀬戸市蛇ヶ洞川の清掃活動

防災・緑化・地域貢献活動



製品を寄進した宗像大社



設置したプレトラックコンセント(高台寺)

電気火災から文化財を守る取り組み

大規模地震発生時の電気火災に有効とされる「感震ブレーカ」と、トラッキング火災を未然に防ぐ「プレトラックコンセント」を京都・奈良の寺院を中心に寄進しています。今後も重要文化財や歴史的価値のある建物・施設などを電気火災から守り、未来に残していく活動を進めていきます。

[寄贈・寄進実績]

- 2014年 臨濟宗大本山 建仁寺(京都市)
- 2015年 古川美術館分館 為三郎記念館(愛知県)
- 2018年 法相宗大本山 薬師寺(奈良市)
- 2019年 本山修験宗総本山 聖護院門跡(京都市)
- 2019年 臨濟宗建仁寺派 高台寺(京都市)
- 2021年 京都市指定有形文化財 長江家住宅
- 2021年 岡墨光堂(京都市)
- 2021年 宗像大社(宗像市)
- 2022年 平等院(宇治市)

経済産業局長賞 受賞

2021年、一般財団法人日本緑化センターが主催する緑化優良工場等表彰において、本地地区が「経済産業局長賞」を受賞しました。工場の緑化を積極的に推進し、工場内外の環境の向上に顕著な功績があると認められたものです。2019年に受賞した「日本緑化センター会長賞」から一段階発展した賞となります。今後も環境整備活動に取り組み、自然や地域社会との共生を目指していきます。



本地地区の緑地

小中学生のサッカーを支援

2006年に瀬戸市の中学生を対象としたサッカークラブ「カワムラFC」を設立。元プロサッカー選手と社会人チーム経験者の社員がクラブ指導をしています。また、瀬戸市内の小中学校のサッカー部へ社員を指導者として派遣しています。2015年には「カワムラFC」の卒業生からプロサッカー選手、2016年にはフットサル日本代表選手が誕生しました。本地地区には、公式試合ができる有グラウンドを整備し、サッカーを通じて子どもたちのスポーツ教育に貢献していきます。

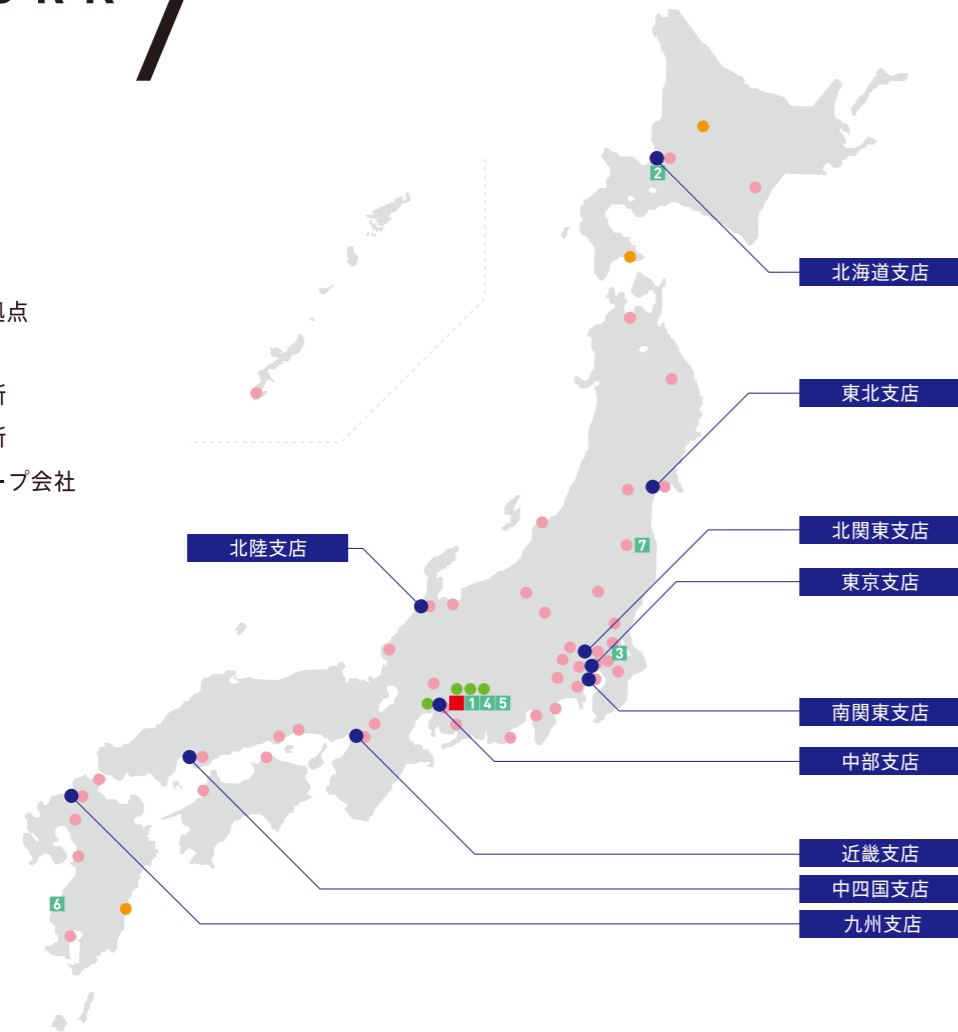


中学生サッカークラブ カワムラFC

DOMESTIC NETWORK

国内拠点

- 本社
- 生産拠点
- 支店
- 営業所
- 駐在所
- グループ会社



生産拠点



1 暁工場

分電盤・制御盤・キュービクルの生産



2 札幌工場

分電盤・キュービクルの生産



3 つくば工場

ラック・キャビネット・分電盤・宅配ロッカーの生産



4 本地第一工場

キャビネット・宅配ボックスの生産



5 本地第二工場

ブレーカ・住宅用分電盤・電子機器・情報通信機器の生産



6 水俣工場

分電盤・キュービクル・キャビネットの生産



7 郡山工場

分電盤・キュービクル・キャビネットの生産
2024年4月稼働

GROUP COMPANY

グループ会社

国内グループ会社



● 河村電器販売株式会社
電気設備機器の販売事業



● 株式会社キップウェイ
IoT事業、あばねっと事業



● 株式会社テクノバン
電気工事業



● 河村物流サービス株式会社
貨物利用運送事業、倉庫事業

海外グループ会社



上海河村電気有限公司
高圧・低圧受配電盤の設計、製造、販売

河村電器(中国)有限公司
配電盤・遮断器・電気機器の開発、部品製造、販売

河村機電(上海)有限公司
遮断器・電気機器の開発、製造、販売

河村電器国際貿易(上海)有限公司
配電盤・遮断器・電気機器の海外販売



河村図文設計(大連)有限公司
高圧・低圧受配電盤の作図



Thai Aichi Denki Co., Ltd.
受配電設備機器の設計、製造、販売



Kawamura Electric Vietnam Co., Ltd.
配電盤の製造、販売



河村電器(北京)有限公司
配電盤・電気機器・情報通信機器の販売、情報通信工事請負



Syntech Switchgear & Engineering Pte. Ltd.
配電盤の製造、販売、メンテナンス

100 YEARS OF HISTORY

100年の歴史

第1期

1919.8 河村鈴吉の個人経営による河村製陶所として創業



1929.11 合資会社河村商店を設立
カットアウトスイッチ、カウンターウエイトなどの屋内配線器具の製造を開始

1941.4 合資会社河村電機製作所に商号変更

1945.9 終戦と同時に製造部門を再開し「復興は先ず電気より」のスローガンを掲げ、本格的に電気配線器具の製造・販売を開始

1946.2 河村産業合資会社に商号変更
代表社員に河村鈴吉就任

1919

第2期

1956.6 河村産業合資会社の代表社員に河村幸就任

1960 業界に先駆けて住宅用分電盤を開発・販売

1961.5 カバースイッチの増産体制確立

1962.3 長根工場操業
分電盤、制御盤の大量生産開始。本格的な分電盤メーカーとしての基礎を確立

1964.4 中学校卒業生の教育を開始

1967.1 社員教育訓練の状況がNHKテレビで全国放映される

1956

- 1967.3 会社組織を株式会社に改め河村電器産業株式会社となり、代表取締役社長に河村幸就任
- 1967.10 第一回QCサークル発表大会開催
- 1968.8 射出成形機を導入し本格的な樹脂生産開始
マークスイッチ、ミニスイッチ、ミニカットの「3Mシリーズ」の生産開始
- 1969.8 旭工場操業
キュービクルの本格生産開始
安全ブレーカの本格量産開始
- 1970.10 漏電ブレーカの型式認定を受ける
- 1973.2 河村学園発足、近畿大学と提携し
通信教育連携校となる
- 1973.6 本地工場(現 本地第一、第二工場)操業
札幌工場操業、九州工場(現 水俣工場)操業



九州工場

本地工場

- 1979.1 研修センター開設
- 1980.7 管理者養成学校へ社員の派遣を開始
- 1982.4 長根工場が漏電遮断器IIS表示許可工場となる
- 1982.5 九州工場敷地内に桜ヶ丘観音を再興
- 1984.11 長根工場が「名古屋通商産業局長賞」受賞
- 1986.5 河村電器販売株式会社を設立
- 1988.6 標準分電盤「コンボ盤」シリーズ発売
- 1989.3 つくば工場操業



つくば工場

第3期

- 1991.5 代表取締役社長に河村幸俊就任
- 1992.1 暁第一工場(現 暁工場)、暁第三工場(現 本地第二工場)操業
- 1992.11 本社・研究開発棟竣工
- 1995.5 ラックシリーズ発売、株式会社テクノバンを設立
- 1996.8 漏電遮断器、配線用遮断器、ISO9002の認証を取得
- 1996.11 上海捷有電子有限公司を設立
- 1997.1 河村物流サービス株式会社を設立
- 1998.12 ISO9001の認証を全工場取得
ISO14001の認証を取得
- 2000.10 上海河村電気有限公司を設立
- 2000.12 ブレーカ、住宅用分電盤、標準分電盤、キュービクルのスマートシリーズを発売
株式会社キッズウェイを設立
- 2001.1 河村電器商事株式会社を設立
- 2002.8 河村電器国際貿易(上海)有限公司を設立
- 2002.10 ECOラック「グッドデザイン賞」受賞



暁第一工場



1991

2002.11 暁食堂が第1回健康で快適な給食施設等表彰で「農林水産大臣賞」受賞



暁食堂

- 2002.12 河村電器(中国)有限公司を設立
- 2004.1 カワムラ西日本株式会社を設立
- 2004.9 「ファミリー・フレンドリー企業 愛知労働局長賞」受賞
- 2004.10 住宅用情報分電盤 ブロードバンドキャビネットおよびデジタル電力計 eモニター「グッドデザイン賞」受賞



2000

- 2004.11 河村機電(上海)有限公司を設立
- 2005 愛知ブランド企業認定
- 2005.3 河村電器(北京)有限公司を設立
- 2007.9 障害者雇用促進で「厚生労働大臣表彰」受賞
- 2007.10 ワットメーターボックスMXV「グッドデザイン賞」受賞
札幌工場 移転
- 2008.9 90周年記念式典を開催
- 2009.10 enステーション「グッドデザイン賞」受賞
- 2011.3 Kawamura Electric Sales (Thailand) Co.,Ltd.を設立
- 2012.5 気仙沼大島観光協会にソーラーシステムLED照明を寄贈
- 2012.9 大規模太陽光発電(メガソーラー)事業開始
- 2012.11 東北支店新社屋竣工
名古屋地区営業拠点 移転
河村図文設計(大連)有限公司を設立
- 2013.2 水俣太陽光発電所竣工



水俣太陽光発電所



札幌工場

第4期

- 2014.1 代表取締役会長に河村幸俊就任、取締役社長に水野一隆就任
- 2014.4 水俣工場 塗装・板金ライン新設
- 2014.8 本地地区 カワムラ物流センター竣工
- 2014.10 カワムラHEMS大学(名古屋)開催
- 2014.12 京都最古の禅寺 建仁寺にプレトラックコンセントを寄進
本地地区 試験棟竣工
- 2015.2 暁第一工場 板金棟 増設
- 2015.3 プレトラックコンセントが「消防防災製品等の推奨」を取得
- 2015.4 本地地区 ものづくり道場竣工



建仁寺

- 2015.9 暁第三工場が本地地区に移転
- 2016.4 暁第一工場から「暁工場」に名称変更
本地工場から「本地第一工場」に名称変更
暁第三工場から「本地第二工場」に名称変更
- 2016.9 タイの受配電機器製造会社 Thai Aichi Denki を子会社化
次世代配電EXPO 開催
- 2016.10 社内報アワード2016 連載企画部門で第1位を受賞

2014

- 2016.12 本地第一工場 F棟竣工
- 2017.4 女性活躍推進委員会を設置
- 2017.5 瀬戸市にサッカー場 坊金グラウンド完成
- 2017.6 住宅用分電盤が「建築設備技術遺産」に認定
- 2018.1 奈良の世界遺産 国宝 薬師寺にプレトラックコンセントを寄進
- 2018.4 名古屋市が所有する「テラスポ鶴舞」にキュービクル、分電盤などを寄贈
- 2018.6 ベトナムに配電盤製造・販売会社
Kawamura Electric Vietnamを設立
- 2018.7 あいち女性の活躍プロモーションリーダーに就任
- 2018.11 ふくしま応援企業ネットワークに参画
- 2019.1 京都市の聖護院にプレトラックコンセントを寄進
- 2019.2 Thai Aichi Denki 第一期工事(塗装棟)竣工
- 2019.4 ミッションを制定 100周年特設WEBサイトを開設

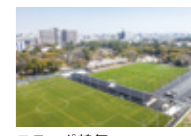
アクティブ・ディフェンス
新しい世界には、新しいあしんを。

ミッション

100
100周年ロゴマーク

100周年ロゴマーク

- 2019.9 京都市の高台寺にプレトラックコンセントを寄進
- 2019.10 本地地区「日本緑化センター会長賞」受賞
- 2020.1 Thai Aichi Denki 第二期工事(板金棟)竣工
- 2020.2 ヘッドスプリング株式会社と資本業務提携に合意
- 2020.8 郡山市と土地売買契約を締結し、新工場の建設を発表
- 2020.10 ミッションを広めるキャラクター「リスクマ」誕生
- 2021.1 京都市指定有形文化財「長江家住宅」にプレトラックコンセント・住宅用分電盤を寄贈
- 2021.4 DX推進委員会を設置
Thai Aichi Denki 第三期工事(事務所棟)竣工
- 2021.6 文化財の保存修理を事業とする「岡墨光堂」にプレトラックコンセント・住宅用分電盤などを寄贈
- 2021.10 本地地区「経済産業局長賞」受賞
世界文化遺産 宗像大社にプレトラックコンセントを寄進
- 2022.2 「DX認定事業者」に認定
- 2022.3 情報システム部 ISO27001の認証を取得
- 2022.6 ベトナムの配電盤メーカー「ANH THY JOINT STOCK COMPANY」と資本業務提携
- 2022.7 シンガポールの配電盤メーカー「Syntech Switchgear & Engineering Pte. Ltd.」をグループ化
- 2022.10 世界文化遺産 平等院にプレトラックコンセント寄進
- 2023.3 ハタラクエール2023「福利厚生推進法人」に認証



テラスポ鶴舞



Thai Aichi Denki 事務所棟

COMPANY PROFILE

会社概要



名称

河村電器産業株式会社

本社所在地

愛知県瀬戸市暁町3番86

創業

1919年8月

設立

1929年11月

資本金

18億340万円

従業員数

単体: 1757名 連結: 1919名(国内グループ)
(2023年3月31日 現在)

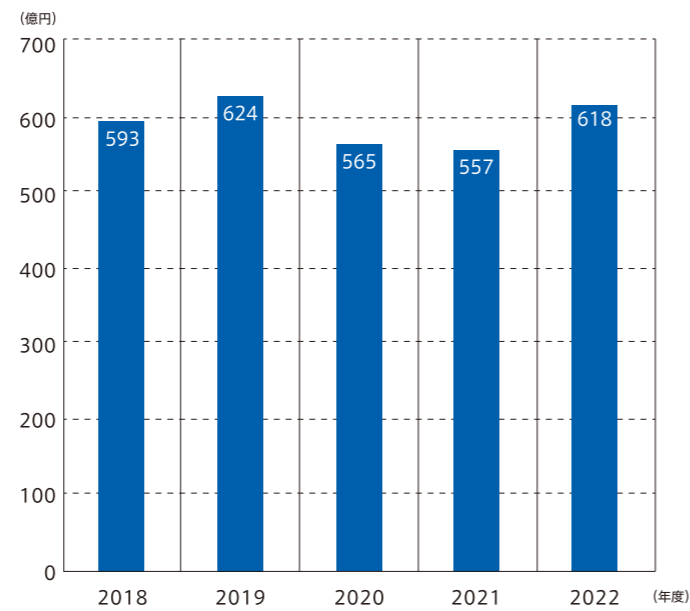
目的

受配電設備、屋内外配線器具の製造販売

役員・監査役

代表取締役会長	河村 幸俊
取締役副会長	河村 誠悟
取締役社長	水野 一隆
取締役副社長	佐藤 治次
常務執行役員	陣之内 俊二
常務執行役員	米林 毅
常務執行役員	伴 覚守
常務執行役員	佐々木 英二
執行役員	釜 照仁
執行役員	米塚 和輝
執行役員	野田 真敬
執行役員	早川 智宏
執行役員	平井 恵
執行役員	柴田 桂
執行役員	土屋 健太郎
監査役(常勤)	加藤 隆規
監査役	柳澤 伯夫
監査役	鈴木 文男

連結売上高



■ 連結売上高(海外グループ含む)

主要取引銀行

株式会社みずほ銀行	株式会社愛知銀行
株式会社百十四銀行	株式会社静岡銀行
株式会社三井住友銀行	

全国拠点



2次元コードからご確認ください
(公式WEBサイトの全国拠点にアクセスします)

品質基本方針

我々は、
品質優先をもとに、
Q・C・D(品質・コスト・納期)の
バランスのとれた製品及び
サービスを提供し、
顧客の信頼に応えます。

環境

環境方針

電気を「安全・安心」に供給する受配電設備の製造に加えて、「効率的な使用」、「地球環境に適した創造」といった、大きなニーズの変化に応えるべく、「エネルギーマネジメントシステム」の分野、太陽光発電をはじめとする「創エネルギー」の分野へ挑戦しています。

環境理念

当社は地球環境の保全と、企業の社会的責任が企業活動の最重点課題であることを認識しています。環境マネジメントシステムを活用して、事業活動、製品およびサービスが環境に与える影響の最小化を図り、“将来にわたり社会にとって必要とされる企業”となるように努力と研鑽を図ります。

環境行動指針

1. 改善(汚染の予防)

環境目標を定め、マネジメントシステムの計画を策定して実行します。定期的に達成度を評価し、環境目標の見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。

2. 取り組み

- 1.地球温暖化の抑制
- 2.資源の有効活用
- 3.環境適合設計の推進
- 4.環境適合製品の拡大
- 5.生物多様性保全への取り組み

3. 順守義務

環境に関連する法律及び組織が同意するその他の要求事項を順守します。

4. 教育訓練

教育訓練及び日常の活動を通して、当社で働くすべての人に環境方針を周知します。当社は、この環境方針を一般に公開します。

1999年8月23日制定
2019年4月1日改定
河村電器産業株式会社
取締役社長 水野 一隆